



国際病理アカデミー

日本支部

A NEWS BULLETIN 2000 Number 3

Published quarterly
by the Japanese Division
of the International
Academy of Pathology

OFFICERS

PRESIDENT

S. Ushigome, M.D. (00)

Jikei University

PAST PRESIDENT

M. Suzuki, M.D. (00)

National Defense Medical College

PRESIDENT-ELECT

R. Y. Osamura, M.D. (00)

Tokai University

SECRETARY-TREASURER

O. Matsubara, M.D. (00)

National Defense Medical College

COUNCILLORS

T. Manabe, M.D. (00)

Kawasaki Medical School

M. Tsuneyoshi, M.D. (00)

Kyushu University

H. Yamabe, M.D. (01)

Kyoto University

Y. Kato, M.D. (01)

Cancer Institute

S. Mori, M.D. (02)

University of Tokyo

H. Hashimoto, M.D. (02)

University of Occupational and Environmental Health

COMMITTEE CHAIR

Education

T. Morohoshi, M.D. (00)

Showa University

Finance

M. Shamoto, M.D. (00)

Fujita Health University

Nomination

M. Suzuki, M.D. (00)

National Defense Medical College



SURGICAL PATHOLOGY UPDATE 2000

BREAST AND PROSTATE PATHOLOGY

Organized by:

The Japanese Division
The International Academy of Pathology
and
The Japanese Society of Pathology

June 9 - 11

Shonan Village Center, Hayama, Kanagawa

COURSE DIRECTORS

S. G. Silverberg, M.D. R. Y. Osamura, M.D.
University Of Maryland Tokai University

FACULTY MEMBERS

S. G. Silverberg, M.D. H. Sasano, M.D.
University of Maryland Tohoku University
J. Epstein, M.D. T. Moriya, M.D.
Johns Hopkins University Tohoku University

M. Furusato, M.D.

Kyorin University

SECRETARIAT

O. Matsubara, M.D.

National Defense Medical College

Mainly sponsored by:

サクラ精機株式会社

Jointly sponsored by:

株式会社ダイアヤトロン、ダコ・ジャパン株式会社

株式会社ニチレイ、オリンパス販売株式会社

岩井化学薬品株式会社、エーザイ株式会社

IAP日本支部は日本病理学会後援でGlobal standardに基づくSurgical Pathologistの育成と国際的に著名な病理医との交流を目的とし、外国招聘また日本側の講師と共にスライド鏡検を中心とした実習解説と関連分野の特別講演からなるSurgical Pathology Update 2000を企画した。今年のFacultyは米国からSteven G. Silverberg, M.D., Professor of Pathology, Director of Anatomic Pathology, University of Maryland と Jonathan I. Epstein, M.D., Professor of Pathology, Urology and Oncology, Johns Hopkins Universityのお二人に、日本側からは杏林大学の古里征國教授、東北大学の笹野公伸教授、森谷卓也助教授にお願いした。期間は6月9日(土)~11日(月)の2泊3日、湘南国際村(神奈川県三浦郡)において開催した。予定の定員50名、多い場合は抽選と当初考えたが、50名を越えたかと思ったらキャンセルがでて、結局は50名に届かなかった。参加費は2泊3日の宿泊、食事、事前配布のスライドグラスセット、ハンドアウトなど一切込みで37,000円であった。

参加者の皆様は大変喜んで頂き、やってよかったと考えています。講師の先生方、当日何かと事務方で手伝って下さったサクラ精機の石塚さん、近藤さん達にお世話になりお礼を申し上げたい。なお、来年は同じ場所で6月にSurgical Pathology Update 2001として「卵巣」と「甲状腺」を取り上げる予定です。どうか大勢の方の出席を望みます。



-- PROGRAM --

June 9 Friday

12:00 Registration

Auditorium (国際会議場)

Moderator: Dr. O. Matsubara

13:00 Opening Remark and Introduction of Faculties
Dr. S. Ushigome

13:30 Introduction to Breast Pathology and Differential
Diagnosis of Intraductal Lesions Dr. S. G. Silverberg

14:30 ---- Coffee ----

15:00 Diagnosis of Limited Adenocarcinoma of the
Prostate on Needle Biopsy Dr. J. Epstein

16:00 Prediction of Therapeutic Implications in Breast
Carcinoma Specimens - a Possible Role of Pathologists-
Dr. H. Sasano

16:30 Current Concept of Ductal Carcinoma in situ of the
Breast Dr. T. Moriya

17:00 Diseases of the Prostatic Urethra and Periurethral
Prostatic Regions Dr. M. Furusato

18:30 ---- Welcome Dinner Party ----

June 10 Saturday 6th Conference Room

(第6研修室)

Moderator: Dr. T. Manabe

09:00 Case Presentation (Breast Pathology)
Dr. S. G. Silverberg

10:30 ---- Coffee ----

11:00 Lobular Lesions of the Breast Dr. S. G. Silverberg

12:00 ---- Lunch ----

13:00 Case Presentation (Prostate Pathology) Dr. J. Epstein

14:30 ---- Coffee ----

15:00 Prostate Biopsy: What Does It Tell Us: Including a
Discussion of the Gleason Grading System Dr. J. Epstein

Moderator: Dr. H. Sasano

16:00 Consultation Hour All Faculties

19:00 ---- Dinner ----

20:30 Microscopic Discussion All Faculties

June 11 Sunday 6th Conference Room

(第6研修室)

Moderator: Dr. R. Y. Osamura

09:00 Prostatic Intraepithelial Neoplasm (PIN)
Dr. J. Epstein

10:00 ---- Coffee ----

10:30 Problems in Surgical Pathology - Breast
Dr. S. G. Silverberg

11:30 Summary of SP Update 2000 Dr. S. G. Silverberg

11:45 Closing Remark Dr. R. Y. Osamura

12:00 ---- Lunch ----

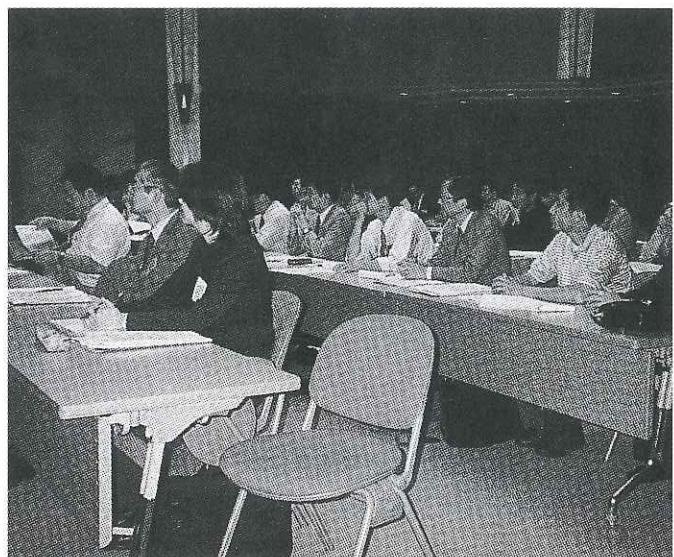
13:00- Adjourn

このSurgical Pathology Update 2000に対する意見・感想の
投稿依頼感想・意見を各参加者に求めたところ以下の投稿原稿が寄せられた。投稿して下さり感謝します。

「Surgical Pathology Update 2000」に参加したときの感想 国立南和歌山病院研究検査科 木村雅友

6月にIAP日本支部が主催したセミナー「Surgical Pathology Update 2000」に参加したときの感想を少し述べてみたい。

会場の湘南国際村センターは数年前にできたという真新しい建物で、パブリックスペースは広く、廊下の壁のいたるところ



ころに絵画の掛かったまさに高級ホテルなみの設備をほこつていた。3日間缶詰で勉強することになっていたわけで、もしひどい施設だったら初日から気分も落ち込んでしまったにちがいない。しかし、湘南国際村は参加者全員が満足のいく素晴らしいセミナーハウスであった。今回のテーマは乳腺と前立腺腫瘍で、国際的に有名な2人の講師、Dr.SilverbergとDr.Epsteinを米国から招いて3日間連続でレクチャーを受けた。2人とも分かりやすい英語でゆっくりと話し、容易に理解できた。他の参加者も同意見であった。アメリカ人は小さいときから、自分の言いたいことを他人にわからせるように話す訓練を受けているので、レクチャーもうまいのだろうと参加者誰もが心配した。これから毎年テーマを変えてこのセミナーが開催され、それにはDr.Silverbergが全面協力してくださると聞いた。わかりやすいレクチャーを受けに毎年参加したいと思っている。

レクチャーとは別にこのセミナーのもう一つの特徴は、参加者同士や講師との交流が活発になるようよく考えられていることである。例をあげると、晩のパーティで参加者全員が自己紹介をしたり、夜はDr.Silverbergと酒を飲みながら彼の人生経験を聞いたり、食事はできるだけ1人ですることのないように気を使っていたり等である。おかげで最終日にはみんなファミリーのようであった。来年のこのセミナーを心から楽しみにしている。

最後になりましたが、セミナーの準備をしてくださったIAP常任幹事の松原修先生をはじめ、牛込会長、他の役員の皆様、日本人講師の方々、サクラ精機の方々に感謝いたします。

Surgical pathology update2000の意見・感想 京大病院病理部 橋 充弘

私は、京大病院病理部の研修医です。去年一年間は、泌尿器科研修をしており、病理の中でも特に泌尿器領域に興味があります。

今年3月に病理部に来て、間もなく、6月にDr.Epsteinが来日し、湘南で、前立腺について講演されるとの話を聞き、1も2もなくSurgical Pathology Update2000の参加申し込みをしました。

3日間の日程中はあいにくの天気にも関わらず、我々若い病理医から、年輩の名物病理医のお歴々まで、多数参加し、流暢な英語で、活発な議論がなされました。最初は、どなたも知り合いがおらず、非常に緊張していましたが、1日目のwelcome party(その後の九州軍団とのカラオケタイム)、2日のラウンジルームでの飲み会(Dr.E.も疑惑では多いに盛り上がりました。)などのイベントがあり、だんだんいろんな人と仲良くなることができました。

講演も、2名の外国人講師はもとより、3名の日本人講師の講演も面白く、特に、Sasano先生の乳腺に関する講演は、帰京後、病理部の皆さんにプレゼンテーションし、臨床科からもHER2の染色についての依頼が来たため、早速抗体を取り寄せる等、準備を進めています。



2日目の晩には、皆が標本を持ち寄る、コンサルテーションアワーがありました。日常業務でも良く見る、悩ましい症例ばかりで、診断業務の糧となるものでした。

来年も同じ場所で、行われるということですが、より多くの、特に若い病理医が気軽に参加できる会になることを希望します。

Surgical Pathology Update 2000に参加して 高知医大第一病理 黒田直人

この度、Surgical Pathology Update 2000に同教室の1年目の先生と一緒に参加させていただきました。我々の高知県では他県の病理医と違い、症例不足のためか、まれな症例に遭遇する機会はもちろんのこと、典型的といわれる症例すら遭遇する機会に恵まれず、外科病理に関する勉強会があれば若い先生と一緒に積極的に参加しています。その中で、今回の企画を知り、飛びついで参加させて頂きました。講師が非常に御高名な先生であり、英語を聴く練習にもなって非常によいと思いました。中でも我々の日常の病理診断業務の直結し、即役に立つ内容は優れていると思いました。来年以降の毎年継続していただければ我々中堅クラスや若い先生方の教育という点でもよいと思われますので、何卒よろしくお願いします。

Surgical Pathology Update 2000に参加して 琉球大第一病理 大谷 博

今回、IAP日本支部主催のSurgical Pathology Update 2000に参加させていただきました。お世話を下さいました事務局の皆様方には厚くお礼申し上げます。会場の湘南国際村センターへの交通は不便でしたが、宿泊施設（室内プール有り）や会議場の設備は充実しており、さらにスponサーの（株）サクラ精機のスタッフの方々が細かい気配りをして下さったお陰でとても快適な時間を過ごすことが出来ました。さて、肝心の内容はDr. S.G. SilverbergのBreast Pathology, Dr. J. EpsteinのProstate Pathologyは共にゆっくりとした英語で非常にわかりやすく説明して下さり、ハンドアウトも盛り沢山で随分と得をした気分になりました。大まかに言うと病変が癌か否かの鑑別、組織型分類、Grading Systemに分けられていましたが、乳腺では組織型分類・Grading Systemが日米間で大きく異なっていること、前立腺ではGleason Scoreの普及と再現性が日本ではまだまだ遅れていることが印象的でした。沖縄からの参加は私一人でしたが、思い掛けず九州の親しくしていただいている数名の先生方と昼夜を共にすることができ、また、九州以外の診断病理医と知り合うきっかけとなり、私にとってはとても有意義なセミナーとなりました。このセミナーは来年からも引き続き行われると聞いていますが、このようなすばらしい試みがますます発展することを期待しています。

Surgical Pathology Update 2000に参加して 原三信病院臨床病理部 河野真司

Surgical Pathology Update 2000に参加させて頂いてありがとうございました。

私の勤めている福岡の原三信病院は、前立腺癌をはじめとする泌尿器系疾患の症例が多く、とりわけ前立腺針生検は悩む症例が少くなく、今回のEpsteinの前立腺のレクチャーは、大変有益でした。実際の診断にあたってのcriteriaが簡潔にまとめられ、特に腺癌と鑑別診断が問題になるadenosisとPINについては、今までのもやもやがすっきりした気がします。ハンドアウトも非常に充実していて、grade別の予後等の数字が、御自身だけでなく、今までのいろんな報告の分がまとめられた表が多数載っていました。また、診断に迷うような場合、臨床にどのようなレポートを返して、その後の処置をどう指示するかにまで言及され、日常業務に即役立つ内容でした。顕微鏡を覗きながらのdiscussionに、もっと症例を持っていけばよかったですと悔やまれます。規模的には、毎年秋のI

A.Pの診断セミナーよりも一回り小さなものでしたが、それがかえって大変快適で、有意義な3日間でした。

お世話して下さった松原先生をはじめ事務局の諸先生に厚くお礼申し上げます。

“Surgical Update 2000”に参加して： 京都大学医学部附属病院病理部 岩佐葉子

6月9日は、梅雨時には珍しい大型の低気圧の影響で、朝から強風を伴う雨であった。そのような大荒れのお天気の中、初めての参加に、かなり憂鬱な気分で自宅を出た。強風の中、逗子駅からタクシーに乗ること10分余り、会場である湘南国際村センターに到着した途端、受付での事務局の親切な応対と広々として新しい会場にほっとしつつ、セミナーが始まつた。

Dr. Silverberg, Dr. Epstein の非常に明確でわかりやすいlectureに納得し、乳腺、前立腺疾患の診断法を会得した気分に陥った。（実際は、日常診断業務に戻った途端、以前のように四苦八苦しているが、病理診断を続けていく以上、この繰り返しであると思っている。）通常の交見会や病理診断セミナー等では、密度の濃い内容を短時間に詰め込んでおり、頭の中が飽和状態、終わると憔悴しきってしまうことが常であるが、この会では時間的にゆとりがあり、楽しむことができた、などと言うとお叱りを受けるであろうか？

初日のWelcome partyやコーヒーブレークで、いろいろな先生方とお知り合いになれただけでなく、私のような病理の経験においての若輩者にとって、guest speakerや「お名前は存じ上げております」というような著名な先生方、また各地の大学や施設から来られた先生方といろいろとお話しできることは、lectureと同じくらいの収穫であった。特に2日目の夜のinformalな飲み会で、Dr. Silverbergが病理に進まれたきっかけのお話を伺つたことが、とても印象に残っている。

通常の勤務医であれば、金・土と休まなければならず、少し無理が生じるのは事実であるが、それをおしても来年も是非参加したいと思っている。

IAP事務局の方々をはじめ、開催にご尽力下さいました皆さんに、心より感謝申し上げます。

を受講する機会を得ましたので、このコースについての感想を記します。今回のテーマは乳腺と前立腺で、米国からの講師がDr. SilverbergとDr. Epsteinということもあり、日本の多くの病理医がこの外科病理のコースに参加しました。受講者は若手の病理医から経験豊富な病理医までとかなり広い年齢層でした。コースは一日目は13時から18時半まで、二日目は9時から12時までと13時から19時まで、三日目は9時から12時までとかなりタイトなスケジュールでしたが、おかげでかなり勉強することができました。一日目が昼から始まり、三日目が午前中で終了したので、2泊3日の滞在で済ますことができ、私のように遠くから来たものにとっては非常にありがたく、その意味からもよく考えられたコースであると思いました。

内容的には事前に乳腺5症例、前立腺5症例のプレパラートが送付されました。それらの症例についての解説に加えて、乳腺ではintraductal lesionの鑑別診断、DCIS, lobular lesionなどについての講義がなされました。また、前立腺では生検標本での癌の診断、Gleason Grading System, Prostatic intraepithelial lesion (PIN)などについて詳細な講義がありました。Dr. Epsteinの明解な講義には圧倒されっぱなしでしたが、PINやGleasonのgradingなど今まで本を読んでも十分に理解できなかつたことが今回の受講でほぼ理解できたので本当に有意義なコースであったと思います。ハンドアウトも充実しており、後日読み返すだけでもかなりの知識の整理ができるものと思いました。また、夕食後には有志が集まり、ビールを飲みながらの歓談があり、今回はDr. Silverbergも飛び入りで参加し、彼の若き日の経験談を聞くことができました。

今回のコースには食事もすべてセットで含まれており、宿泊費（2泊分）および食費（6食分）が2,600円、受講料（鏡検用スライドセットとハンドアウトを含む）が11,000円で、合計37,000円ときわめて低料金であり、通常アメリカやイギリスなどでこのような有名な講師によるコースが行われればこんな値段では決して受講できないので本当に驚いています。また、このセミナーは今後当分続けていく計画との話を聞き、来年もぜひ参加しようと思っています。日本では依然として今回のような外科病理のセミナーは少なく、こういったセミナーが充実してくれば、日本のsurgical pathologyのレベルアップにつながると思います。ぜひ今後も毎年同じようなセミナーを続けてください。今回のセミナーを計画されました牛込新一郎先生、長村義之先生、松原修先生、そして関係者の方々には本当に感謝致します。

Surgical pathology update 2000に参加して 匿名希望

最寄りの駅に降り立ったとき、折しも空は曇り、突風が吹き荒れていきました。

車の向かった先は、町外れのさらに外れにある丘の上。けれど、いったん中に入れば、まずはやさしいお姉さんの出迎えにほっとし、さらには、おもしろい講義に充実した時間でした。

講師の方々の英語は、口調をはっきりとして下さったこともあり、聞き取りやすかったです。また、話の緩急が巧みでした。乳腺と前立腺というテーマの知りたい内容が、うまくまとめられていました。

会そのものも、人数の少なさもあり、和気あいあいとした雰囲気でした。外の先生がたのお話の聞けたこと。しかも、硬い話から、碎けた話まで。業務の内容や、日々の話を聞けたことは、とても実りのあることでした。

こういった会があれば、また参加したいです。

Surgical Pathology Update 2000に参加して 鳥取赤十字病院病理部 山根哲実

湘南国際村センターで行われたSurgical Pathology Update 2000という2泊3日の強化合宿に参加した者として感想を述べさせていただきます。田舎者には憧れの響きを持つ湘南海岸のイメージに惹かれて行ってみると、会場は駅から遠く



Surgical Pathology Update 2000を受講して 北海道大学医学部附属病院病理部 清水道生

本年6月9日（金）から11日（日）にかけて湘南国際村センターの国際会議場で行われた『Surgical Pathology Update 2000』

離れた静かな山中にありました。近所に繁華街もなく、私のように不真面目な輩でも、間違いなく勉強に専念できる環境でした。湘南は、海岸ではなく、山中でした。参加費37,000円は、宿泊費、食事代、スライド標本代、ハンドアウト代をすべて含み、まさにlow cost, high performanceなセミナーでした。参加者は顔見知りが多く、和気あいあいとした雰囲気の中でセミナーは行われましたが、lectureをする人にも、受ける人にも真剣な緊張感があり、たいへん良いセミナーであったと感じています。

私は大学卒業後1年を内科医として研修した後、5年を大学の病理学教室で過ごし、その後1~4年を地方総合病院（野戦病院）の何でも屋の病理医として過ごしてきました。その中で体感したのは、我々は臨床家からspecialistではなくgeneralistであることを望まれているという点です。generalistと言っても、相手は各科の皮膚の専門家ですので、その方々に満足感を与えるレベルでなければなりません。言い換えれば、あらゆる領域において専門家並のレベルを要求されているわけです。その為には、あらゆる機会を利用して、多くの領域の専門家、大家のlectureを受けるのが効率的な学習だと思いますが、そのような目的のための診断病理学の教育カリキュラムが、日本では長い間不足していたように思います。最近、病理学会の改革も進み、次第にこのような教育カリキュラムも増えてきている現状を喜んでいます。このような教育カリキュラムの先例として、私も毎年参加している倉敷診断病理学セミナーがあります。日本の病理医の質の向上のためにも、この湘南のセミナーが、倉敷診断病理学セミナーと同様に、発展的に毎年開催されるようになります。今年はIAP NAGOYA 2000も開催され、日本の病理医にとって勉強する機会の多い、たいへん素晴らしい年ですが、これが今年だけに終わることがないように切望いたします。病理医の地位向上と病理医の労働環境の改善のためには、このような教育活動による病理医の質の向上と、それに伴う社会的認知が必要であると考えています。いつの日か日本でもUSCAPのような学会が毎年ひらかれるようになることを願っています。

最後に、Surgical Pathology Update 2000を企画、運営された関係者の皆様に心より感謝いたします。

Surgical Pathology Update 2000に対する感想 名古屋第二赤十字病院検査部 都築豊徳

Surgical Pathology Update 2000に対する感想文を送らせて頂きます。今後ともこの会が続けられることを念じております。

Surgical Pathology Update 2000の案内書を頂いた時、あの有名なEpstein教授が日本で本当に講演するのだろうかと正直言って驚きました。彼の発表は何度か聞いたことがあったのですが、教育講演は未だ聴いたことがなかったので今回参加させて頂きました。内容は基本的に彼の著書である *Biopsy interpretation of the prostate*に沿って行われた感がありますが、内容が実に簡潔且つ整然としていたのには感服させられました。又、最新の彼の知見(今年3月のUSCAPで発表した内容)まで含まれており、常に内容を改定していく彼の態度に驚かされました。Epstein教授は早口で有名なのですが、今回の講演は比較的ゆっくりしゃべられて、日本人に対してかなり配慮してくれているのだなと思いました。Epstein教授といえば舌鋒鋭く相手を論破するという厳しい方という個人的印象があつたのですが、実際に直にお話してみると実に親しみやすい方でした。(尤も個人的に色々質問した際には途中から熱くならうようで、USCAPでみかけるEpstein教授に変わっていましたが・・・)

最後に、この様な貴重な会の設置に御尽力された牛込先生、長村先生、松原先生を中心としたIAP関係の先生及びSteven G Silverberg先生におかれても大変な御苦労があったかと思います。関係の諸先生方には深く感謝致します。来年以降もこの様な充実した講習会が催され続けることを願っております。

Surgical Pathology Update 2000の感想 国立水戸病院研究検査科病理 中野雅行

Surgical Pathology Update 2000 のことは病理と臨床の告示で知りました。締め切り間際でもあり、定員が決まっているので、駄目かと思いつつFAXで申し込んだ。しばらく音沙汰もなくあきらめていたところ参加できる旨の通知を得てその日を楽しみにした。湘南国際村というまだ行ったことのない場所も魅力的であった。

外国ではこういう講習会はよっしう開かれていて外人の講師は聴衆にわかりやすく話すプレゼンテーションの仕方に慣れていて、ハンドアウトも良くてそれを入手するだけでも価値があると思っている。前もってスライドガラスが配られているので自分なりに診断し聞きたい事もはっきり認識して講習を聞けるのも嬉しいことである。

今回は乳腺と前立腺をS.G.Silverber, J.Epstein先生及び日本の講師3人で解説された。笛野、森谷、古里先生も欧米スタイルの講演に慣れておられ中身の大変濃い講習会であった。印象的であったのは診断するにあたり、主病変の細胞所見も重要であるが、近傍の組織の変化、腺の萎縮の有無等その周辺の情報も判断の根拠に取り入れられていることであった。診断を進めるにあたりその病変が発生するその臓器、組織の背景の変化まで考慮し多くの情報から最終診断を決めるという納得できるものであった。病形を覚えて診断を当てるのではなく何故その変化を腫瘍と考えるか、その過程を大切にするものであり再現性もある。つまり、自分の病院に帰ってすぐ毎日の診断に応用でき自分の診断能力を自分の経験で磨きあげるのに役立つものであった。

それと、いつも感心するのは病変の一つ一つの説明は我々でもなんとか出来るのであるが、彼らはその臓器の病変全体の中におけるその病変あるいは所見の頻度などいわゆる統計的情報が良く整理されていることである。日頃の診療の単なる感情的な積み重ねではなく、客観的観察の集積なのである。また、他の研究者の見解も正確に紹介しそれに対する自分の意見もきっちりと話される公平さも見習うべきところであった。

参加者も若い病理医が多かったが、自分の問題症例検討会でも英語で結構発表されていてこういう人達がいればこれから日本の病理も良くなるのではないかと期待される。一日目の夜に懇親パーティーが開かれ、全員の自己紹介を日本語混じりの英語(逆かな)で行われ、参加者相互の知り合うきっかけもできて、翌日からの講習や食事のテーブルなど和やかな環境づくりに良かった。全国、北は北海道、南は沖縄から(ここは事務局で確認する必要がある)の参加があり相互を知り合う良い機会であった。今後、病理学会で会っても顔見知りになれるし、参加者名と所属の名簿を期待します。講習の中身は勿論のこと講習会も期待どおりの満足のいくもので次回も参加する予定である。

Surg Pathol Update2000感想 神戸大学医学部附属病院病理部 稲葉真由美

Surgical Pathology Update 2000に参加された先生方、いかがお過ごしでしょうか。

その後数日は自分の診断能力が高まったような気がしていましたが、それは思い込みであったような気もする今日この頃です。英語も集中砲火を浴びていないと普段はなかなか使うこともなく、症例報告を一日一行書きかけてはやめるような怠惰な日々です。

しかしながら(しかしながら、と、いずれにしろ、なんかもレポートによく書く語彙ですよね)、講義やディスカッション、先生方とお話しするのがとても楽しかったこと、湘南国際村センターの設備が素晴らしいことなどはよく覚えています。

いちいちあげるときりがないので特に印象に残ったプログラムはと言いますと、第2日目の Case Presentation, Consultation Hour です。Case Presentation では普段目にしながら解決のつかない症例と同じような症例が提示されており、



出題者の先生が非常にわかりやすく疑問点をまとめておられました。Dr. Silverberg がそれに対して、とても明瞭にお考えを述べておられました。それまでの講義の内容と重ねて、実践的で、有意義な時間であったと思います。Consultation hourでは、先生方がどのようにプレパラートを見ておられるのか、弱拡大から強拡大にするまで、ポイントをどのように見ていくのか、などを見学できたのが面白かったです。盛況で時間が充分なかつたのが惜しかったですね。

全体にとっびで難しすぎる症例をあげられるのではなく、日常に生かすことができ、最新の情報のもりこまれた講義ばかりでした。

多くの先生方に出会うことができ、今後とも外科病理学の勉強を続けていくうえで励みになるような3日間でした。お世話くださったIAP日本支部事務局の諸先生方に心からお礼を申し上げます。また、来年参加したいと思います。

Surgical Pathology Update 2000に対する感想 署名希望

有意義な3日間を過ごさせて頂きました。私のような経験の浅い病理医でも理解できるように基礎から始まり、up-to-dateな話題まで網羅されており、非常に勉強になりました。今後、日常の診断に役立てていこうと思います。また、講義終了後にお酒を片手にいろいろな話を聞かせてもらえたことも、通常の講習会ではないところだと思いました。今後も継続を期待致します。ありがとうございました。食事もgoodでした。

update 2000感想 天理よろづ相談所病院病理 宮川 文

平成12年6月9日に、湘南国際村センターの国際会議場で行われましたSurgical Pathology Update 2000 に対する感想です。まず今回のHandoutsは非常にまとまっていて良かったと思います。Projected Materialsに対しましても同様の事が言えると思います。個人的にはDr.Epsteinのが特に気に入っています。時間割、日数などもまったく問題ないと思います。よってOVERALL SATISFACTIONはFully Satisfiedという結果になります。来年もまた同じ場所で参加できたらと思います。

IAP本部からのお知らせ

IAP本部のSecretaryのFlorabel G. Mullick, M.から8月16日付けのFAXが届きました。ここに内容をお知らせします。これはNew Orleans Executive Committeeで決まったことです。

IAP MISSION STATEMENT

The IAP is dedicated to the advancement of Pathology through educational exchanges worldwide. In order to achieve

this mission, the academy will:

- a. Serve as an international pathology organization which coordinates activities of its divisions ad encourages the formation of new divisions where appropriate.
- b. Convene international congress each biennium providing educational programs which advance pathology education, research ad practice.
- c. Provide access to highest quality pathology education worldwide through lectures and seminars, educational grants, international congresses and teaching materials.
- d. Encourage strategic placement of international congresses.

TERMS OF REFERENCE A HOC ADVISORY COMMITTEE TO THE INTERCONGRESS EDUCATION COMMITTEE

1. This Committee is established to serve in an advisory capacity to the Executive Committee and the Council.
2. The Committee is charged to identify educational and scientific needs in indigent geographic areas.
3. It is further charged with the responsibility to arrange, supervise, audit, and evaluate educational programs, that are responsive to these needs, and that are supplemental to the offerings of the biannual Congresses of the International Academy.
4. With the approval of the Executive Committee, the Committee is empowered to select lectures, faculty, course directors, and moderators for structured presentations such as symposia, courses, ad lectures, as will most appropriately satisfy the educational and scientific needs of the sponsored didactic programs.
5. The Committee is charged to provide an annual written report to the Executive Committee ad/or Council.

Membership:

1. The members of the Ad Hoc Educational Committee shall be appointed by the Executive Committee, with approval by Council, to attain the following composition:
 - A. A Chairperson ad a membership body, not to exceed ten. The body will be geographically representative of the same areas as the Vice Presidents.
 - B. The Secretary of the International Academy will be an official member and will function as the secretary for this Committee.
2. Members, including the Chairperson, will serve for four years. Terms will be staggered so as to achieve an approximate fifty percent replacement on a biennial schedule. Members may not serve two consecutive full terms but may, under the advisement of the Executive, be requested to remain active for an additional two years.
3. The Executive Committee will appoint replacements to fill unexpired terms and may appoint an ad hoc member for a limited period to fill a specific need or to develop a specific program.

(Adopted by the Executive Committee or Council on 21 March, 1999 date in an Francisco, U.S.A.)

あとがき：Steven G. Silverberg, M.D.と長村次期会長がCourse Directorとして始めたSP Update 2000が参加者から投稿にあった様に喜ばれやってよかった、成功だったと考えている。会員の皆さんにも報告を兼ね、また来年の企画にもこういった意見を取り入れるべく、特別に会報に取り上げた。

常任幹事：松原修／事務局秘書：佐々木洋子
〒359-8513 所沢市並木3-2 防衛医科大学校病理学第2
P: 042-995-1507 / F: 042-996-5193
E-mail:matubara@cc.ndmc.ac.jp